

[ゲンロク]

2019
SEP
No.403
9
定価 980Yen

GENROCK

World of McLaren & Ferrari

攻めるマクラーレン 飛躍するフェラーリ

最新V8ミッドシップ、フェラーリF8トリブート &
マクラーレンGT日本上陸!

[速攻インプレッション] フェラーリ488ピスタ・スパイダー

[インタビュー] マクラーレンの野望

[マクラーレン最新モデル対決]

600LTスパイダー/720Sスパイダー/570Sクーペ

[至宝の2台] マクラーレンF1 vs フェラーリF40

[最新ランボルギーニの味]

ウラカンEVO in 富士スピードウェイ

[蘇る伝説]

ゴードン・マーレイ
スーパーマシンの詳細

[ジャパニーズスポーツの到達点]

日産GT-R vs ホンダNSX

スーパーカー & NSX特選ショップ



日本での正式発売は2011年

9月だったから、気がつけば間もなく8年が経つ。なのに少しも鮮度が衰えず、今もなおザ・スーパーカーといった孤高の存在感を放つのがアヴェンタドールである。度重なる改良で現在はアヴェンタドールSへと進化し、事あるたびに限定のスペシャールが登場してきた。

そうした流れで究極の中の究極といった存在が、このアヴェンタドールSVJだろう。伝説的なJOTA（イオタ）の物語に端を発して、わずか数台が製作されたミウラSVJの符号が、アヴェンタドールに添えられたのだ。今度の生産台数はわずか900台。ミウラSVJほどではないにしても極めて希少で、未来永劫価値の宿るモデルである。

アヴェンタドールに限らず、こうしたスーパースポーツの限定モデルとなれば、投機対象と見られる向きが手伝って、ついガレージに仕舞い込みつ放しになりそう。しかし、目の前に現れたこの個体は、持ち前の動力性能を活かすかのように元気にストリートを走り回っていた。

色鮮やかなロッソマーズというボディカラーの中に、ランボルギーニ独自の可変エアロダイナミクスであるALAを強調させるようなカーボンボディパーツが浮き立つ。このコ―ディネットだけでも、心をとぐと掴まれるようなセクスを感ぜさせるが、さらに足元にひと手間がある。

アヴェンタドールのカスタム世界ではすっかり定番となった、ハイパーフォージド製ホイールに置き換えられている。今まで数えきれないほどのランボルギーニをカスタムしてきたハイエンド系輸入車販売店、オ

大人っぽいカスタムである。

オートブラザダックとハイパーフォージドは、アヴェンタドールの発売間もない頃、純正ホイールサイズがフロント19インチ、リヤ20インチ時代だった時期から、前後1インチアップとしたサイズを提案してきた。それがアヴェンタドールSやSV、そしてこのSVJになって、ランボルギーニ側が採用したのだ。そうした意味では彼らの先見の明には唖らされる。マッチングという意味では折り紙つきだし、ヴィジュアルの面でもバランスがいい。

カラーコーディネートも抜群だ。ディスク、リムともに無骨なブラッシュドに、アナダイズド加工を加えたブロンズカラーとなる。光の当た



アヴェンタドールSVJ専用にマッチングさせたHF-LC5のセンターロック。フロント9.0J×20インチ、リヤ13.0J×21インチというのは純正ホイールと同サイズだ。255/30ZR20、355/25ZR21のピレリ・Pゼロコルサというタイヤも純正と同じ。ブラッシュド・アナダイズド・ブロンズの色味がロッソマーズのボディと調和している。

HYPER FORGED HF-LC5 Centerlock for Lamborghini Aventador SVJ

SVJのその先にある究極の中の究極

REPORT ● 中三川大地 (Daichi Nakamigawa) PHOTO ● 山本佳吾 (Keigo Yamamoto)

ートブラザダックらしい選択だ。

SやSV以降のアヴェンタドールはセンターロック方式が採用されるようになった。しかし、心配は要らない。日本刀のように鋭利なツイン5スポークが美しいHF-LC5には、きっちりセンターロックモデルが用意されるからだ。この銘柄を用いて、アヴェンタドールで定番となったフロント9・0J×20インチ、リヤ13・0J×21インチを投入した。フロントは大型ブレーキシステムとの調和を図るようなセミコンケープ、リヤは立体感が強調されるティーフコンケープで、タイヤサイズはフロ

ント255 / 30ZR20、リヤ355 / 25ZR21となる。
実はタイヤ自体は、ランボルギーニの純正サイズと変わらない。SVJ専用に開発されたというピレリPゼロコルサを使うためでもあるし、リヤホイールステアとの兼ね合いもある。大径にせず性能を底上げする

り方によって、様々な表情を見せるのが特徴で、各スポークに設けられた切削処理が美しく輝く。ロッソマーズのボディカラーやレッドキャリアーとの相性もよく、派手すぎず地味すぎない絶妙な塩梅である。
これなら汚れも厭わず刺激的な乗り味を楽しめそうだ。刺激的と言えばこのSVJは、パワークラフトのハイブリッドエキゾーストシステムに変更されていた。究極的な限界性能こそ、相応の腕を持つ人間がサーキットで走らせてこそ享受できるもの。しかし、たとえストリートであってもその片鱗を味わうことはできる。ハイパーフォージドとパワークラフトは、その魅力をそつと後押しするキーデバイスである。



PARTS LIST	
HYPER FORGED HF-LC5 Centerlock	
19インチ (7.5J~14.0J)	16万5000円~21万8000円
20インチ (7.5J~15.0J)	17万6000円~23万5000円
21インチ (7.5J~14.0J)	20万6000円~27万7000円
22インチ (8.5J×14.0J)	25万3000円~37万9000円

※価格は税別。



世界限定900台にしてアヴェンタドールの究極完成形とも言えるSVJ。稀有なこの個体は、ロッソマーズのボディカラーにグロスカーボンのボディパーツというコーディネート。さらにハイパーフォージド [HF-LC5] のほか、ブラックアッパーテールを持つパワークラフトのハイブリッドエキゾーストシステムが装着されていた。